「吉林省農安県生態保護・防風固砂林建設事業」～学校交流を願って～

宮城県日中友好協会　本郷　祐子

宮城県日中友好協会が日中緑化交流基金の助成を受けて中国吉林省の緑化事業を開始してから昨年で１４年となった。

昨年の植林地の記念碑の前で

吉林省は防風固砂が主目的なので手堅く地面を覆うポプラや樟子松が目的達成に直結すると思っていたが、去年は経済林を目指すと言うことで榛（ハシバミ）を植えた。　２８年４月１５日　ボランティア植林団２１名は朝早く新潟空港から哈爾浜経由で植林地を訪れた。植林当日の空は雲が垂れ込め、植林日和と内心大いに喜んだ。初めて見る榛の苗を、保水剤をつけて１本１本植樹阮に差し込み、丁寧に土をかけ水を遣って植えていった。この苗は３年後にはたわわに実をつけて農安県に経済的な潤いをもたらしてくれると思うと、とてもいとおしくてステッキのような苗が光り輝いて見えた。

農安県林業局は３年間の植林事業地に楊樹林林場、哈拉海林場、三盛玉林場に合計３００ha を計画。毎年１００ha ずつを植える予定にしていた。

9 月の調査訪中では植樹の活着率などの調査をするだけでなくもう一つの任務を担っていた。植林訪中団の参加者は日中友好協会会員が多く、それぞれが中国と関わりを持っていて、知人と会ったりゆかりのところを訪ねたりするのが通例だが、今回は 10 月 10 日施行で富谷市になる富谷町の中学校と農安第三中学の友好交流の話し合いを進めるという使命があった。9 月 23 日植林調査の後、県日中友好協会・江幡会長、富谷日中の水戸理事長、理事の本郷、通訳の孫さんの 4 人で 4 月訪問した農安第三初級中学を訪問。改装後間もなくピッカピッカ！真新しい中学校。1 学年 6 クラス各クラス 50 名くらい約 1000 名の生徒が学んでいる。男子寮女子寮も完備されていて、日本の中学とはだいぶ様子が違うが、生徒は本当に純朴でかわいらしく見えた。廊下には試験結果や 1 学期の優秀生徒などが張り出されていた。

4 階に集まっているのでどうぞといわれ案内された。エレベーターはもちろんなく自分の足で一段一段ずつあがっていくので年寄りにはハードな運動量だった。教室の仕切りを 4 室くらい外した状態の講堂で、大きな部屋に 150 名くらいの生徒が集まっていて整然と我々

農安第三初級中学の講堂で

の到着を待っててくれた。富谷日中から 4 月訪問の返礼にと文房具詰め合わせを贈る。校長の挨拶、江幡会長の挨拶の後、今後の友好交流を祈念しつつ学校に別れを告げた。

その後ホテルで教育交流について農安県の教育長等と打ち合わせをした。帰国後富谷市と将来につながる交流が拓けるよう、協力していきたい。中学校同士の交流が進み、中学生の交換訪問とか文化交流、芸術交流が実現する日を楽しみにしている.